

ご賛同いただける方は、ご署名の上FAX・郵送ください。

すべての子どもたちが、
未来への希望をもち、安全に安心して学べる学校を作るために、
今、学校には多くの人の支えが必要です。



福井県教職員組合では、教育に携わっている下記の5団体と連携し、「福井の教育をよくするための県民連合」として、毎年教育条件整備を求める教育請願を行っています。例年7万筆を超える署名が集まり、12月県議会で採択され、教育条件整備が少しずつ改善されてきています。

昨年の請願で、
小学3年生の35人以下学級が
実現しました!

児童虐待、いじめ、不登校の問題に加え、安全対策など、
子どもの学校生活での迅速な対応が求められ、
無担任の生徒指導主事存在が必要です。

アレルギー疾患等を抱える
児童生徒が増えており、
給食にも十分な配慮と対応が
求められています。

発達障害等を抱え、
個別の対応や支援、学びの場を必要とする
児童生徒が増えています。



すべての子どもたちに個に応じた、きめ細やかな教育を!

2015年度福井の教育を良くするための教育整備請願を求める請願

今年度は以下の4項目について、教育条件整備を求めます。

- いじめ対策として、小中学校に無担任の生徒指導主事配置
- 正規の通級指導担当教員の増配置及び小中学校への特別支援非常勤講師の増配置
- 正規の養護教諭・栄養教諭の増配置
- スクールソーシャルワーカーの増員と正規の事務職員の増配置

一人ひとりの子どもたちにゆきとどいた教育を実現するためにみんなの力を結集しましょう!

氏名	住所

請願団体 福井の教育をよくするための県民連合

連合福井・福井県PTA連合会・公益財団法人青少年育成県民会議・一般社団法人福井県子ども会育成連合会・福井県退職教職員会・福井県教職員組合
※署名に関するお問い合わせは下記連絡先まで

キリトリ線

キリトリ線



Q 全国学力テスト実施の目的は?

A 小学6年と中学3年を対象に行われる全国学力テスト(全国学力・学習状況調査)は、学力と学習の状況を把握する目的で、国語と算数(数学)のテストと同時に生活の様子を調べています。指導の参考になる一方で、さまざまな懸案事項もあります。



《答える人》福井県教職員組合 書記長 勝見 義治さん

- 4時間以上
- 3~4時間
- 2~3時間
- 1~2時間
- 30分~1時間
- 30分未満

文部科学省「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について(概要)」より引用

好成績の理由は、地域の連携と真面目な県民性
——テストは学力調査が目的ではないのですか?
学習到達度を知るのも目的のひとつですが、自宅学習やスマホ使用状況、学習習慣、学校の教育環境や指導状況などの関連性を分析し、指導に活かすことも目的なのです。結果を知って対策を考へることが重要です。

結果は意義のある出し方を
——今年より詳しい結果が公表されることになりました。
今年から市町村教委の判断で、市町村別・学校別成績の公表が許可されました。しかし結果公表は、過度な競争を招く恐れがあり、文科省も序列化になるような点数だけの公表を禁じています。地域や保護者への説明責任は果たすべきですが、成績をそのまま出す必要はないでしょう。県内の市町村教委

学力テストは抽出方式で
——テストを実施する意味はないのですか?
統計として実態を知るためなら、抽出方式で十分なのです。問題は毎年違い、前年度との学力比較も厳密にはできないのですから。学力テスト同様に話題に上るOECDのPISAの調査も、抽出方式です。全学校実施により懸念されるのは、事前準備等子どもや先生の負担が増えることです。「生きる力をつける」という本来の

教育にかける時間が減ってしまったら、子どもたちが勉強から逃げるようになり、本末転倒です。
——それは困ります。
福井の子どもの学習態度と先生方の研究意欲が低下しないよう、教育環境を整えることが大切なのです。そして何より、抽出方式に変えるなどテスト制度の抜本的改革が必要です。しかし文科省の意向もあり急な変更は難しいので、現状では先生方の多忙化解消のためにも慢性的に不足している教員数を増やして対応するのがよいと思います。人員増で解消できる問題は、他にもたくさんあります。今回は結果を公表する市町村もあって、例年より学力テストが話題になったようです。このように世の中全体が教育に関心を持ってくれたらいいと思います。環境が築けるのだと思います。

——福井県の学力は、いつも1、2を争う好成績ですね。
学校を取り巻く地域・家庭との関係がしっかりとれていることが、背景にあると言われます。福井では親が子どもに宿題をさせようとするのは普通ですが、全国的にはそうだったところばかりではありません。福井県の場合、学校・家庭・地域が同じ方向を向いて学習規律を身につけさせるので、子どもたちはブレることなく安心して学校に通えるのです。また先生方が真面目で、効果的な指導方法を研究・共有しようという意識が高いことも理由のひとつです。

——今年より詳しい結果が公表されることになりました。
今年から市町村教委の判断で、市町村別・学校別成績の公表が許可されました。しかし結果公表は、過度な競争を招く恐れがあり、文科省も序列化になるような点数だけの公表を禁じています。地域や保護者への説明責任は果たすべきですが、成績をそのまま出す必要はないでしょう。県内の市町村教委

——テストを実施する意味はないのですか?
統計として実態を知るためなら、抽出方式で十分なのです。問題は毎年違い、前年度との学力比較も厳密にはできないのですから。学力テスト同様に話題に上るOECDのPISAの調査も、抽出方式です。全学校実施により懸念されるのは、事前準備等子どもや先生の負担が増えることです。「生きる力をつける」という本来の

教育にかける時間が減ってしまったら、子どもたちが勉強から逃げるようになり、本末転倒です。
——それは困ります。
福井の子どもの学習態度と先生方の研究意欲が低下しないよう、教育環境を整えることが大切なのです。そして何より、抽出方式に変えるなどテスト制度の抜本的改革が必要です。しかし文科省の意向もあり急な変更は難しいので、現状では先生方の多忙化解消のためにも慢性的に不足している教員数を増やして対応するのがよいと思います。人員増で解消できる問題は、他にもたくさんあります。今回は結果を公表する市町村もあって、例年より学力テストが話題になったようです。このように世の中全体が教育に関心を持ってくれたらいいと思います。環境が築けるのだと思います。

携帯電話・スマートフォン使用時間別の平均正答率 (1日当たり。ゲームは除く)

